

第1回香美市地域公共交通活性化協議会

議事要旨

日時・場所

令和4年11月29日（火）午前10時～
香美市立中央公民館2階会議室

次第

1. 開会
市長あいさつ
自己紹介
2. 議事
 - (1) 会長・副会長の互選について
 - (2) 香美市地域公共交通計画について
(骨子案・他市町村の公共交通計画事例・住民アンケート他)
3. その他
4. 閉会
5. 配布資料
 - (1) 会議次第
 - (2) 香美市地域公共交通活性化協議会 委員名簿
 - (3) 香美市地域公共交通計画（骨子案）【資料1】
 - (4) 県内市町村等における公共交通計画の一覧【資料2】
 - (5) 香美市における地域公共交通に関するアンケート調査について【資料3】

会議状況



会議状況



議事要旨

1. 開会

- (1) 市長挨拶
 - ・ (省略)
- (2) 自己紹介
 - ・ (省略)
- (3) 会長・副会長の互選について
 - ・ 会長に高知工科大学准教授 西内裕晶氏、副会長に(有)香北観光タクシー代表取締役 恒石猛臣氏を選出し、会長が議長となり議事を進行する。
- (4) アドバイザー 高知工科大学客員研究員 土居貴之氏 挨拶
 - ・ (省略)

2. 議事

- (1) 香美市地域公共交通計画（骨子案）、県内市町村等における公共交通計画の一覧について
 - ・ 香美市地域公共交通計画（骨子案）【資料1】、県内市町村等における公共交通計画の一覧【資料2】について事務局から説明（省略）。

【質疑】

- ・ 事務局： 資料1の8ページ第2次香美市振興計画の策定年は、平成29年3月ではなく、令和4年3月になるため、修正する。
- ・ 会長： 補足説明として、計画の中では何を実施するかが重要になり、本計画では施策になる。本協議会の委員の方々が計画で定めた目標数値を達成するために、いつどこで何を実行するかが重要である。
- ・ 副会長： 計画は5年間で作成するのか。
- ・ 会長： 計画は来年度に作成する。再来年度からの5年間で計画期間となる。
- ・ アドバイザー： 地域（集落）の特性はどのように調査する予定か。香北町谷相と美良布では移動の特徴が異なってくる。地域の人がどんなことに困っているかをどの

ように把握するのか。なるべく地域に入って聞き取りを行うべきである。

- ・事務局： 令和3年度に集落の実態調査を県で行っている。今後、地域の実態調査について検討を行う。
- ・委員： 本計画において重要になってくるのは、都市計画との整合を図ることである。様々なステークホルダーがいるなかで、市としてまちのあるべき姿を打ち出すべきである。
- ・委員： 市の施策に福祉タクシー制度がある。本制度は公共交通とは別で福祉の視点で語られてきたが、公共交通は高齢者・障がい者も含んだものになる。福祉タクシー制度を全体の施策体系の中にどのように入れていくかを議論していただきたい。
- ・委員： 福祉タクシー制度の補足になるが、今後、利用者にとって使い勝手のよい移動とするために、公共交通の仲間に入れてほしい。例えば500円券を月4回往復配布したとき約2億円の費用がかかる。同じ市の財政の中で検討してほしい。
- ・会長： 福祉タクシー制度の位置づけを明確にしてほしい。またデータ・情報を事務局に提供してほしい。
- ・アドバイザー： 資料1の11ページの公共交通空白地域について、鉄道駅から800m、バス停から300mとあるがどのような経緯で決めたのか。
- ・事務局： 国土交通省都市局都市計画課の「都市構造の評価に関するハンドブック」を参考に設定している。
- ・アドバイザー： 市として鉄道駅から800m、バス停から300mと設定するのか。
- ・事務局： 地域の実情に応じて今後検討していく。
- ・アドバイザー： 鉄道駅は広く距離を取られるが、歩くしか方法がない方にとって鉄道駅とバス停の距離を変える意味があるのかと思う。今後地域の実情に応じて決めてほしい。
- ・副会長： 計画を途中で公表する予定はあるのか。
- ・事務局： 計画案についてパブリックコメントを実施し、市民に意見をいただく予定である。令和5年度の終盤に実施予定である。

(2) 香美市における地域公共交通に関するアンケート調査について

- ・香美市における地域公共交通に関するアンケート調査について【資料3】について事務局から説明(省略)。

【質疑】

- ・委員： 資料3表紙の「アンケートは、新型コロナウイルス感染症の影響(外出自粛など)がない普段の生活を念頭にお答えください」は削除してよいのではないか。現在の普段の生活の実態を記載いただく方がよいと思う。
またアンケート対象者は無作為で2,000名を抽出するとあるが地域・年齢のバランスはとってほしい。偏ることがないようにしてほしい。
- ・事務局： 今後ウィズコロナとなるため、新型コロナウイルス感染症の書きぶりについては検討する。
アンケート対象については、地域・年齢のバランスを取る。

- ・委員 : 80代の方にアンケートを答えてもらう場合、文字が小さく何を書いてあるかわからないと言われる方もいると思う。
- ・事務局 : 自力で回答が難しく対応をご希望の方には聞き取りや対面で代筆を行うなどを検討したい。
- ・委員 : アンケートは計画を策定する上で大事になってくる。アンケート対象者2,000名の数の根拠と、回収率はどのように考えているか。本市の人口から考えた場合、2,000名は人口の1割弱である。
- ・事務局 : 本市の人口は26,000人程度で1割弱である。市の他のアンケートにおいても2,000名が多い。回収率は他自治体で実施した交通アンケートの実績から4割を想定している。
- ・委員 : 通常の世論調査では3割程度が多いと聞く。それから言えば4割は多いほうだと思うが、現在示していただいている数が妥当であるのか疑問である。
- ・アドバイザー : 800名の回収を見込んでおり、統計学的に言えば、地域の傾向を把握できる数と言える。ただし100名しかいない地域の声はおそらく2名程度の方の声になるのではないか。それでは地域の声を正しく拾うことはできないと思うので、前述したとおり地域に入ってヒアリングしてほしい。
- ・委員 : 個々でヒアリングを行うのであれば、都市計画マスタープランの拠点となる場所で行ってはどうか。マイノリティの意見によってバイアスがかかることは統計上避けなければならない。
- ・会長 : アンケートを配布する際は注意し、対象者はランダムとなるように実施してほしい。
- ・委員 : 通勤先等の場所を小学校区で聞いているが、市民は答えづらいのではないかと思う。
- ・アドバイザー : 資料3の2ページ間3の希望どおりの外出ができているかを見るときに、小学校区で見ると、もう少し細分化した地域で現状を把握できないのか。
- ・事務局 : もう少し細分化した地域で現状を把握する。
- ・会長 : アンケート全般に言えることだが、生活圏の範囲を意識して聞くようにしてほしい。
- ・委員 : 市民が公共交通を自分ごととして考えるための設問が少ないのではないか。
- ・委員 : タクシーについての設問がない。タクシー事業について特に聞くことがないということか。それともタクシーを公共交通としてみていないということか。
- ・事務局 : タクシーは公共交通としてみている。ただ市として公的負担を行っていないため、公的負担を行っているバスと、鉄道は公的負担を行っていないが主幹となる公共交通のため設問を設けている。
- ・委員 : 本市全般の公共交通の計画を策定する上でタクシーも重要である。タクシーを利用したくても利用できない方もいると思うので、ページ数は増えるがタクシーについても聞いてほしい。
- ・事務局 : タクシーのアンケート項目を追加する。

- ・会長 : 今のご意見は非常に重要で公的負担の有無に関係なく、足りない支援があれば今後計画に立てていくべきである。
- ・委員 : 本計画は本市のみを計画の区域としているが、他の自治体との交通の結節を考えていけばよりよい計画になるのではないか。
- ・事務局 : 本市においては鉄道やタクシーもあるため、今後検討していく。
- ・委員 : 運輸局はこのことについて法令的に何か問題があるか。
- ・委員 : 問題はない。香南市の公共交通会議のなかで、香南市の方が土佐山田町まで移動している実態があると聞いている。各関係機関との連携でバスの時間を調整したりなど、一部の地域では接続を考えているが、本計画にそういったことまで取り入れてしまうと調整するのが難しいと思う。今年度中に広域である高知県の交通計画が策定される予定であり、今後市町村間の移動についても記載されていくと思う。
- ・委員 : 通院のことを考えると、例えば医療センターでは南国市からバスが出ており、南国市と連携すれば香美市の方も医療センターに行ける。実際にバスも走っており、県の方で調整できるのであればしていく必要がある。本市内だけで生活しているのではない。広い視点でも今後調整してほしい。
- ・会長 : 提案で資料1の8ページ第3章上位・関連計画の概要で周辺自治体との位置づけを記載してみてもどうか。他の計画ではなかなか見ないが本市の市民の生活圏が広いためである。
- ・委員 : 資料3の7ページ問11では交通手段について2つ以内で選択することになっているが、あてはまるもの全てでよいのではないか。
- ・事務局 : 「2つ以内」から「あてはまるもの全て」に変更する。
- ・委員 : 本市において交通計画を初めて策定することになるのか。また計画を策定する上で本市としては新しいことを取り入れていくのか、それとも現状維持でいくのか。
- ・事務局 : 計画の策定については今回初めてとなり、今年度・来年度の2か年で作り、5年間の計画となる。新しい取組については委員の方々と検討していきたい。予算についてはアンケートで市民の方にも聞きながら関係課と協議をして考えていきたい。
- ・委員 : 予算は国から出るわけではなく、本市でやり繰りしながら新しい取組を行うということか。
- ・事務局 : 予算の方は委託事業については特別交付税が8割ぐらい入っている。新しい事業については例えば新しくバスを購入しようすれば県の補助がある。様々な補助を活用しながら進めていく。
- ・委員 : 何か特別なことを本市で行う予定はあるのか。
- ・市長 : 国の様々な支援策はあるが、本協議会の中で様々なご意見をいただきたい。大事なことは地域の公共交通を維持し、集落を維持したいと思う。持続可能な公共交通にしていきたい。
- ・会長 : アンケートで今ないものに対してどう思うかを聞くことでニーズを把握することができると思う。例えば「バスが自動運転化されたらどうしますか」や「公共交通

が定額制（サブスクリプション）で乗り放題だったらどうしますか」などである。

- ・委員：そこについては資料3の11ページの最後の自由記述欄に記載してもらえばよいのではないか。
- ・会長：「今の公共交通はどうですか」を聞くと利用している人はこのままでいい、利用していない人は要らないと言われることが多い。新しい取組を行うのであれば、いくつか手段や方法を提示して意向を聞いてみてはどうか。
- ・委員：資料3の11ページの最後の自由記述欄に位置づけを教えてほしい。
- ・事務局：自由記述については大事な部分だと認識している。ただ要望を全て聞くことは予算の関係上、難しい場合もある。まずは意見を集約し、分析していきたい。
- ・委員：資料3の10ページ間20では公的負担金について聞いているが、主婦の立場から言えば1億2,200万円をどのように捉えていいのかわからない。多いのかそれとも少ないのかわからない。例えばいくらまでなら出せるか、または公的負担金が市の予算の何割を占めているのかなどの工夫や説明がほしい。
- ・会長：支払意思額についても聞いてみてはどうか。

1億2,200万円についてはわかりにくので、工夫してほしい。
- ・事務局：修正を行う。
- ・アドバイザー：資料3の7ページ間9の公共交通の利用頻度の選択肢で「ほとんど利用しない・全く利用しない」の2つあるが人によって感覚が異なるため、具体的な数値で表現してみてはどうか。例えばほとんど利用しないは年に1回以下などに変えてはどうか。

10ページ間21は公共交通に対する認知度を聞いていると思う。それぞれの選択肢を選んだ理由や対処法を記載いただくようにしてはどうか。
- ・委員：本協議会の委員に四国旅客鉄道は入っていないが、鉄道に関するアンケート項目があるが、意見をどのように反映させるのか。
- ・事務局：アンケート結果を四国旅客鉄道に報告する予定である。ただ全てを聞いていただけるかはわからない。
- ・会長：四国旅客鉄道を話す機会があったが、鉄道路線とバス路線の重複部分があったとき料金のバリアをどう除けていくかなどのお話を前向きにされていた。地域の声として伝えてほしい。
- ・事務局：アンケート調査票を本協議会の意見を反映させたものをメールまたは郵送で送付し、了承を得れば、アンケート調査票を市民に送付する。
- ・委員：各委員にアンケート調査票を送付するとき、一緒に計画策定までのスケジュールを送ってほしい。
- ・委員：アンケートだが広報等にQRコードを付けることで2,000名以上の人に答えていただけるのではないか。
- ・事務局：QRコードについては検討する。
- ・委員：ジェイアール四国バスの路線名が大柵線となっているが、現在は大柵まで走っていない。美良布線になるのではないか。

- ・事務局： 名称が大柝線となっている。
- ・委員： 12月には市役所の他部署でも別のアンケートを配布する予定である。できれば本アンケートは年明けに実施してほしい。

3. その他

- ・その他議事は特になく議事を終了し、閉会した。

以上